

序章 都市計画マスタープランの策定にあたって

01 市民意向調査

02 都市づくりの課題

03 全体構想

04 ゾーン・拠点別方針

05 分野別方針

06 実現に向けて

参考 佐賀市の現況



第1章 市民意向調査

1-1 調査の概要

本計画の策定に際して、市民の意向を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に、18歳以上の市民2,000名（居住地、性別、年齢の偏りが生じないように配慮し、住民基本台帳から無作為抽出）を対象にアンケート調査を実施しました。

回収結果は、回答数806件（内WEB回答133件）、回収率は40.3%（内WEB回答6.7%）となりました。

佐賀市のまちづくりに関する市民アンケート調査
～ご協力をお願い～

日ごろから、佐賀市政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。
佐賀市では、平成22年3月に「都市計画マスタープラン（佐賀市の都市計画に関する基本的な方針）」を策定し、人口減少・少子高齢化時代に対応した持続可能なまちづくりに向けて取組を進めています。
このような状況の中、人口減少の進展や激甚化・顕発化する自然災害、また、新型コロナウイルス感染症拡大による社会変容など、本市を取り巻く環境が大きく変化していることから、これらに対応すべく次期都市計画マスタープランを策定することとしております。そのため、市民の皆さまの率直なご意見をお聞かせいただき、今後の取組の参考資料として活用させていただきたいと考えています。
つきましては、ご多忙のところとは存じますが、アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。
令和6年1月吉日

佐賀市

【ご回答にあたって】

- ◆本調査は、佐賀市住民基本台帳に登録されている18歳以上の方から無作為に選ばせていただいた2,000名の方にお送りしています。
- ◆本調査は、無記名調査です。名前や住所を記入していただく必要はありません。
- ◆ご記入されましたら、アンケート調査票を同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投入してください。（※切手を貼る必要はありません。）
- ◆誠に勝手ながら、**令和6年2月5日（月）まで（消印有効）**に投入してください。

※なお、このアンケート調査は、**PC・スマートフォンでも回答可能**です。
PC・スマートフォンから回答される際は、右記のQRコードよりアクセスもしくは下記URLよりご回答ください。
<https://forms.gle/snUHZud9hXJeVR66A>
（PC・スマートフォンでご回答いただいた場合は、本用紙を記入していただく必要はありません）



- ◆対象者の抽出からアンケートの回収まで佐賀市が行い、第三者に個人情報を提供することはありません。
- ◆ご回答いただいた内容は統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することはありません。
- ◆記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

【本調査に関する問い合わせ先】
佐賀市 都市戦略部 都市政策課 都市計画係
〒840-8501 佐賀市栄町1番1号
電話：0952-40-7163
e-mail：toshi@city.saga.lg.jp

あなたご自身のことについてお聞きします。

【問1】あなたの年齢についてお聞きします。
当てはまるものを**1つ選び番号に○印**をつけてください。

1. 20歳未満	2. 20～29歳	3. 30～39歳
4. 40～49歳	5. 50～59歳	6. 60～69歳
7. 70歳以上		

【問2】あなたが今お住まいの地域（校区）についてお聞きします。
当てはまるものを**1つ選び番号に○印**をつけてください。

1. 鞆岡	2. 菟野	3. 日新	4. 赤松	5. 神野	6. 西与賀	7. 嘉瀬
8. 巨勢	9. 兵庫	10. 高木瀬	11. 北川副	12. 木庄	13. 鍋島	
14. 金立	15. 久保泉	16. 蒲池	17. 新栄	18. 若穂	19. 間成	
20. 諸富（諸富北、諸富南）	21. 春日	22. 春日北	23. 川上	24. 松梅		
25. 富士（北山、北山東部）	26. 三瀬	27. 南川副	28. 西川副			
29. 中川副	30. 大詫間	31. 東与賀	32. 久保田（惣齊）	33. 分らない		

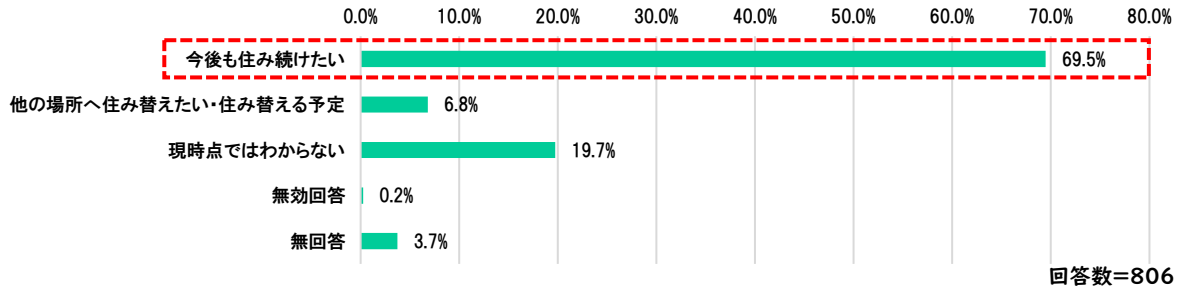
【問3】お住まいの地域の居住年数についてお聞きします。
当てはまるものを**1つ選び番号に○印**をつけてください。

1. 3年未満	2. 3年～10年	3. 11年～20年
4. 21年～30年	5. 31年以上	

1-2 集計結果

①佐賀市への定住意向

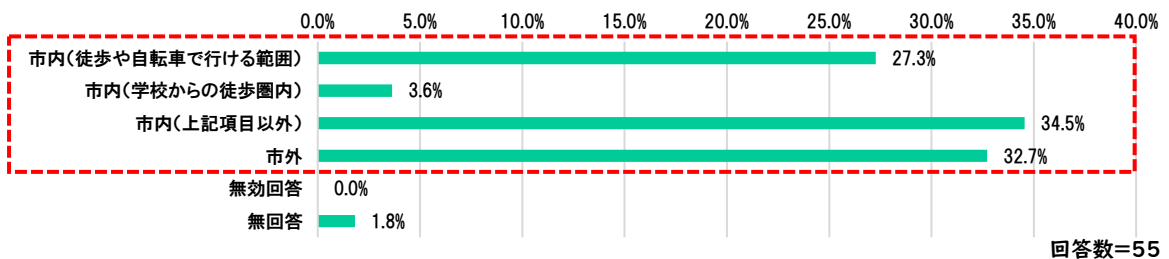
◆「今後も住みたい」と回答した方は69.5%となっており、「他の場所へ住み替えたい・住み替える予定」と回答した方は6.8%となっています。



①-1 住み替えの場所

◆市内での住み替え意向が多く、計65.4%となっています。また、「市外」と回答した方は32.7%となっており、住み替え先として佐賀県内の他市町村や福岡市などが多く挙げられています。

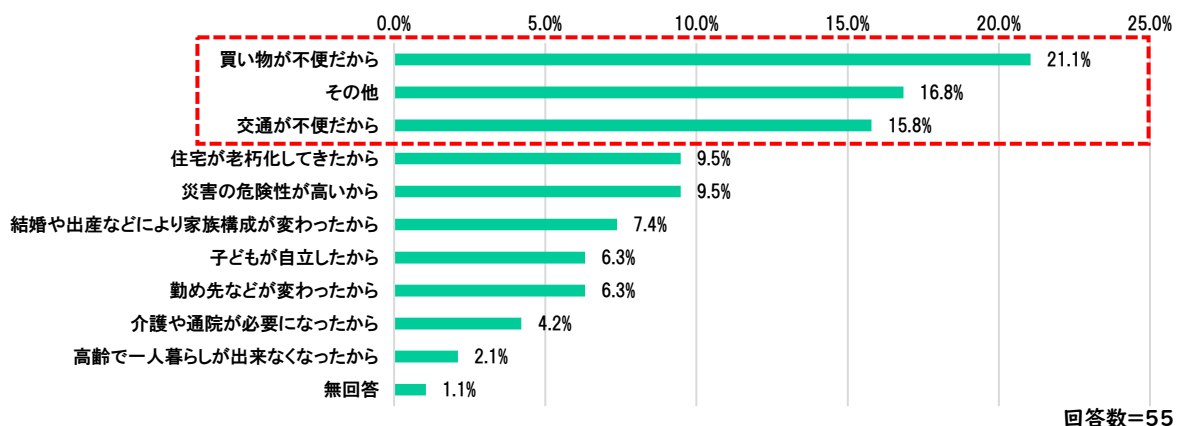
※「他の場所へ住み替えたい・住み替える予定」と回答した方のみ



①-2 住み替えの理由

◆「買い物が不便だから」の回答が最も多くなっています。次いで、「その他」「交通が不便だから」が多く、「その他」の記述内容としては「水害で浸水するから」「進学先や職業が変わるため」「文化施設が少ない」等が挙げられました。

※「他の場所へ住み替えたい・住み替える予定」と回答した方のみ



②生活環境や施設整備の満足度と重要度

- ◆生活環境や施設整備の満足度については「緑・水辺など自然の豊かさ」が最も高く、「鉄道やバスなどの利便性」が最も低くなっています。
- ◆今後の整備・改善の重要度については、「火災・地震・水害などの防災対策」が最も高く、次いで「歩行者・自転車の安全確保（歩道整備など）」が高くなっています。

満足度（「満足」「どちらかといえば満足」と回答した数）の上位5項目

順位	項目	
第1位	11	緑・水辺など自然の豊かさ(68.2%)
第2位	1	日常的な買い物の利便性(63.3%)
第3位	15	工場からの騒音、悪臭などの対策(61.9%)
第4位	2	医療・福祉施設などの利便性(61.4%)
第5位	4	国道や県道など大きな道路の整備(60.9%)

回答数=806

不満足度（「不満足」「どちらかといえば不満足」と回答した数）の上位5項目

順位	項目	
第1位	7	鉄道やバスなどの利便性(53.6%)
第2位	6	歩行者・自転車の安全確保(歩道整備など)(52.5%)
第3位	9	身近な小公園や子どもの遊び場(40.8%)
第4位	19	火災・地震・水害などの防災対策(40.6%)
第5位	5	家のまわりの生活道路の整備(39.2%)

回答数=806

重要度（「重要」「どちらかといえば重要」と回答した数）の上位5項目

順位	項目	
第1位	19	火災・地震・水害などの防災対策(73.3%)
第2位	6	歩行者・自転車の安全確保(歩道整備など)(71.7%)
第3位	2	医療・福祉施設などの利便性(71.5%)
第4位	18	防犯上の安全性、治安(71.3%)
第5位	1	日常的な買い物の利便性(70.8%)

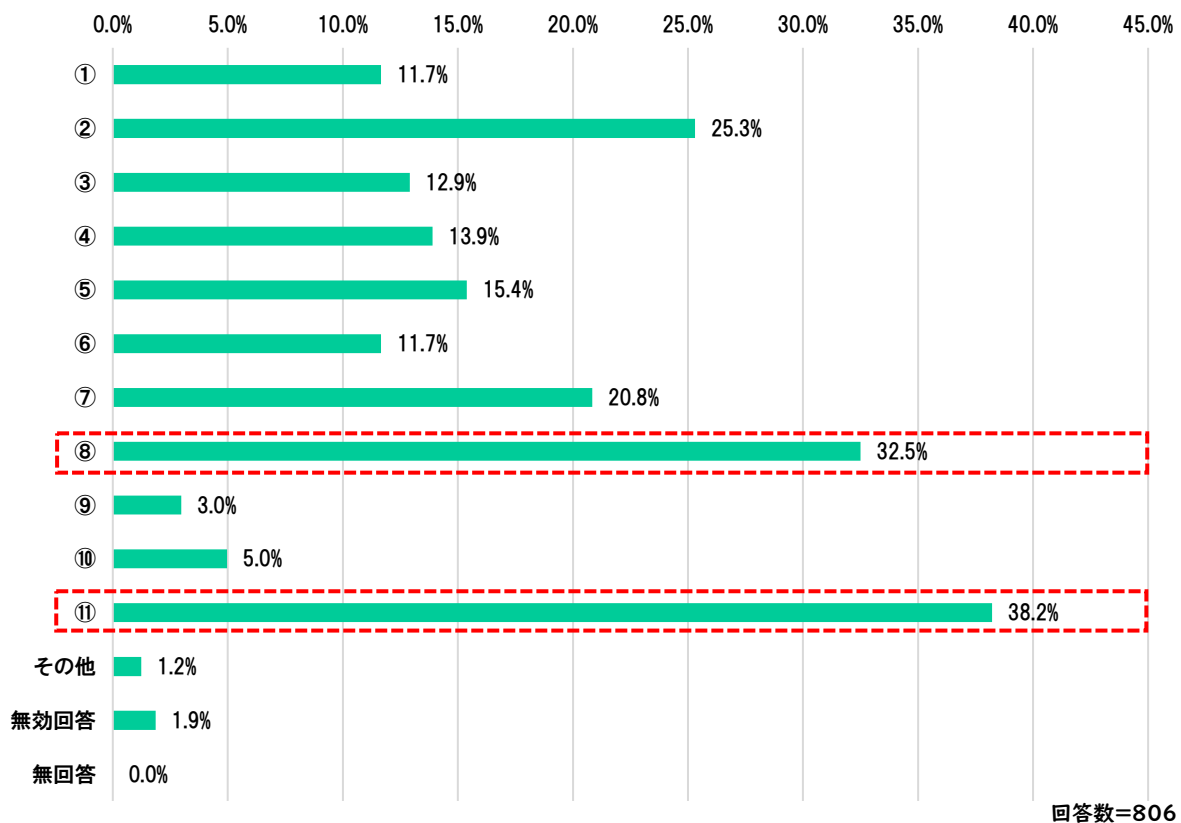
回答数=806

【選択肢】

1	日常的な買い物の利便性	11	緑・水辺など自然の豊かさ
2	医療・福祉施設などの利便性	12	環境に配慮したまちづくり
3	図書館やスポーツ施設などの利便性	13	歴史的な資源を活かしたまちづくり
4	国道や県道など大きな道路の整備	14	まちの景観や良好なまちなみづくり
5	家のまわりの生活道路の整備	15	工場からの騒音、悪臭などの対策
6	歩行者・自転車の安全確保(歩道整備など)	16	交通騒音や振動などの対策
7	鉄道やバスなどの利便性	17	古い家や狭い敷地の家が密集する状況の解消
8	野球などスポーツができる大きな公園	18	防犯上の安全性、治安
9	身近な小公園や子どもの遊び場	19	火災・地震・水害などの防災対策
10	生活排水・雨水の排水(下水道・浄化槽)		

③住み続けたいまちづくりの取組について

◆「⑪水害などの災害に強いまちづくり」の回答が最も多く38.2%となっており、次いで、「⑧高齢者や障がい者にやさしいまちづくり」が32.5%となっています。

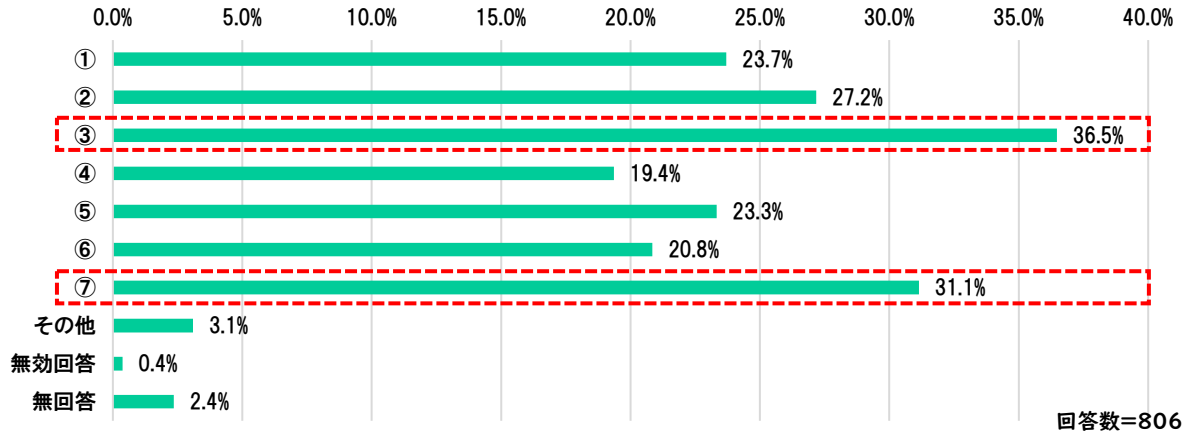


【選択肢】

- ①ライフステージやライフスタイルに合わせて多様な住まい方ができるまちづくり
- ②中心拠点と地域拠点が公共交通で結ばれたアクセス性の高いまちづくり
- ③都市機能や生活利便施設が各拠点にまとまったコンパクトなまちづくり
- ④空き家や空き地などの活用によりにぎわいや交流を生み出すまちづくり
- ⑤新たな企業の誘致などにより働く環境を充実させるまちづくり
- ⑥豊かな自然・歴史資源を活かし愛着が持てる景観づくり
- ⑦子育て機能や支援の充実による子育てしやすいまちづくり
- ⑧高齢者や障がい者にやさしいまちづくり
- ⑨気軽にレクリエーションを楽しめる環境づくり
- ⑩自然環境の保全や温室効果ガスの削減等による環境にやさしいまちづくり
- ⑪水害などの災害に強いまちづくり

④まちの魅力を高めるまちづくりの取組について

◆「③佐賀市北部の温泉や南部の干潟など、各地域の観光資源のさらなる磨き上げ・PR」が最も多く36.5%となっており、次いで「⑦鉄道駅と主要な観光地を結ぶバスなどの公共交通ネットワークの形成」が31.1%となっています。

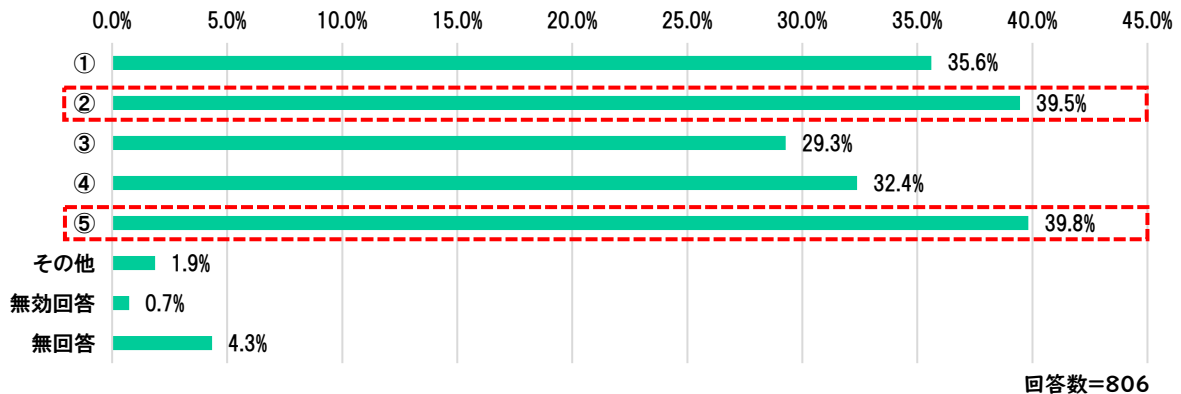


【選択肢】

- ①多様な都市機能の誘導などによる中心市街地のさらなる活性化
- ②佐賀駅周辺などにおける歩いて楽しい空間の創出
- ③佐賀市北部の温泉や南部の干潟など、各地域の観光資源のさらなる磨き上げ・PR
- ④多彩な自然環境・歴史資源の保全・活用
- ⑤来訪者を受け入れる宿泊施設の充実
- ⑥主要な観光地を結ぶ広域的な道路ネットワークの形成
- ⑦鉄道駅と主要な観光地を結ぶバスなどの公共交通ネットワークの形成

⑤有明海沿岸道路及び佐賀唐津道路の整備により期待することについて

◆産業活性化、観光振興、文化交流、防災性の向上、定住人口の増加の全てに一定の期待がなされていますが、その中でも「⑤利便性の向上による定住人口の増加」「②交通ネットワークを活かした広域観光の促進」の回答が多くなっています。

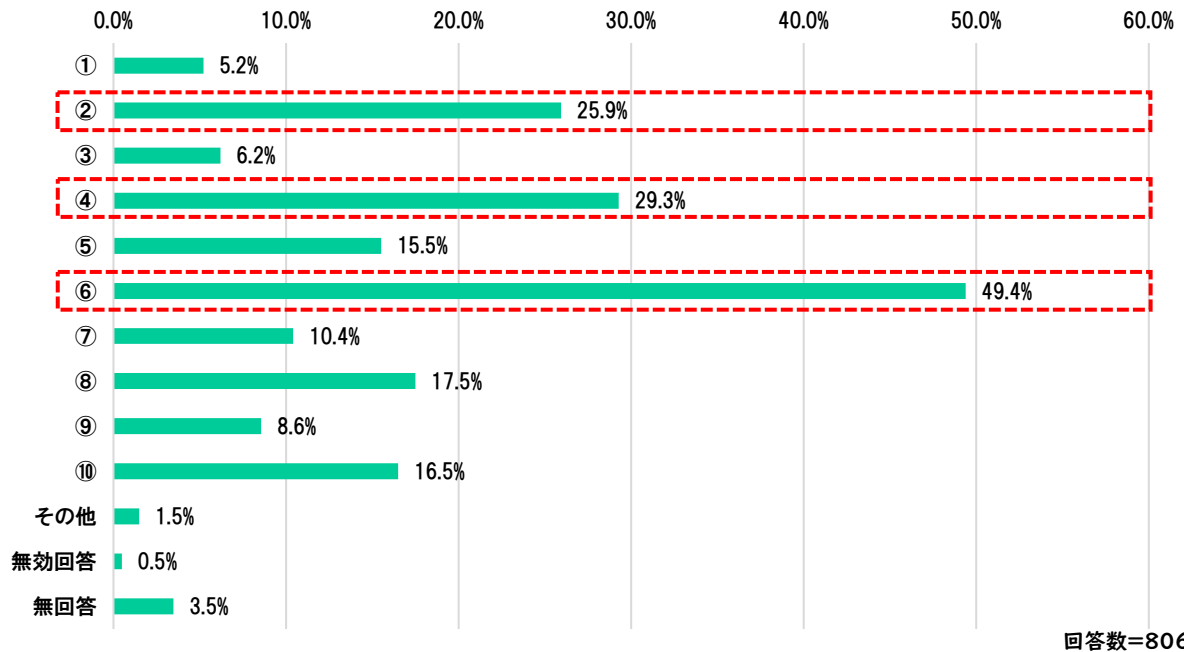


【選択肢】

- ①物流の効率化などによる農業・水産業の活性化
- ②交通ネットワークを活かした広域観光の促進
- ③近隣市との連携による産業振興、文化交流の促進
- ④災害時における緊急輸送路としての機能発揮
- ⑤利便性の向上による定住人口の増加

⑥安全・安心なまちづくりに向けた整備や取組について

◆「⑥洪水などの被害を減らすよう河川などを整備する」が最も多く49.4%となっており、次いで、「④公共施設などの防災機能の強化（避難や災害時の一時的な滞在機能など）」「②建物の耐震化（地震時に倒れにくい建物にする）をすすめる」が多くなっています。

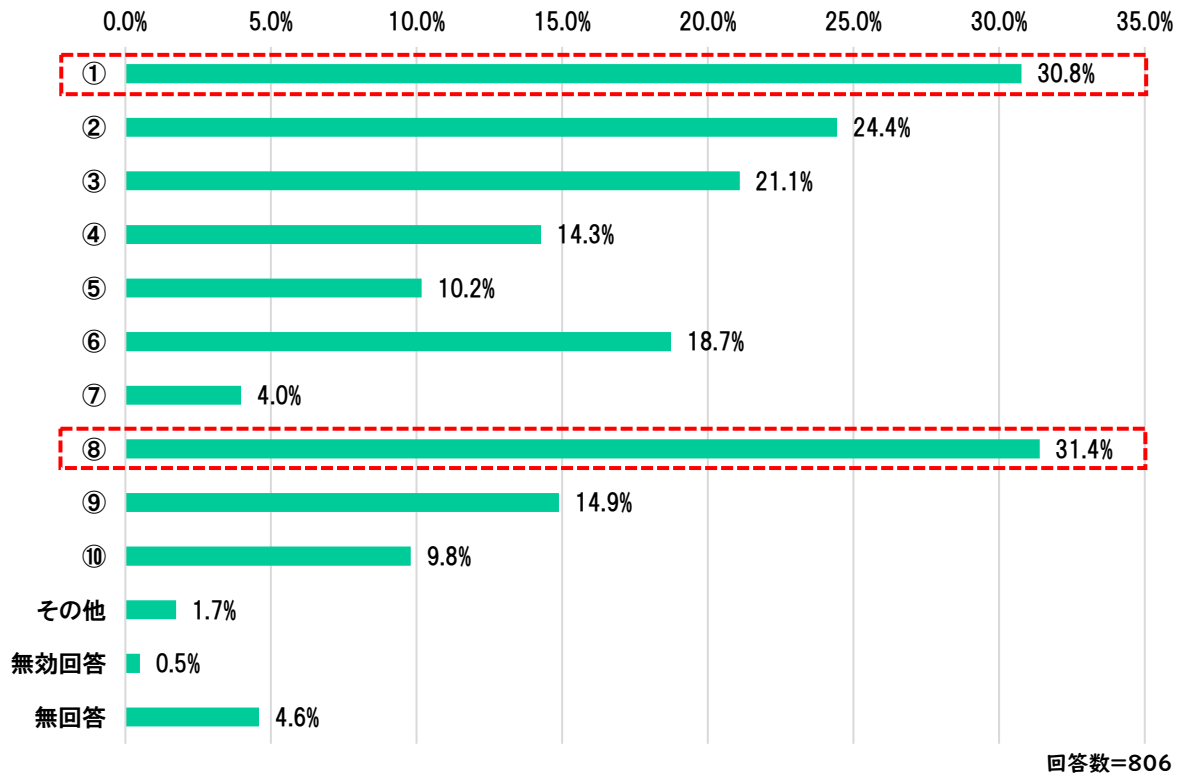


【選択肢】

- ①建物の不燃化（延焼しにくい建物にする）をすすめる
- ②建物の耐震化（地震時に倒れにくい建物にする）をすすめる
- ③地震時に倒れやすいブロック塀を生垣などに変更する
- ④公共施設などの防災機能の強化（避難や災害時の一時的な滞在機能など）
- ⑤災害時に安全に避難ができる道路を整備する
- ⑥洪水などの被害を減らすよう河川などを整備する
- ⑦土砂くずれや崖くずれへの対策を行う
- ⑧避難場所や災害情報などを市民に適切に発信する
- ⑨地域防災力の向上（自主防災組織の充実、避難訓練の実施、リーダーの育成など）
- ⑩「自分の身の安全は自ら守る」ための防災知識の普及・啓発

⑦自然環境の保全・活用や地球温暖化の防止に向けた取組について

◆「⑧過度に自家用車に依存しない公共交通への利用転換を促進する」「①山間や丘陵地の森林、動植物などを保全する」の回答が多く、ともに約3割の回答が集まっています。



【選択肢】

- ①山間や丘陵地の森林、動植物などを保全する
- ②河川沿いや有明海沿岸の自然の保全や緑化を推進する
- ③シェア畑や直売所、農家レストラン、観光農園など多様な農地活用を促進する
- ④公園のリニューアルにあわせてカフェを併設するなど新たな活用方策を推進する
- ⑤公共施設や工場・大規模店舗などでの緑化を推進する
- ⑥特色ある街路樹や並木など道路の緑化を推進する
- ⑦民有地の緑化を促進する
- ⑧過度に自家用車に依存しない公共交通への利用転換を促進する
- ⑨環境負荷の低減に資する電気自動車や水素自動車の普及を促進する
- ⑩脱炭素の実現に資する環境に配慮した建物（ZEB^{※1}・ZEH^{※2}等）の普及を促進する

※1 ZEB:Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略語。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。

建物の中では人が活動しているため、エネルギー消費量を完全にゼロにすることはできないが、省エネによって使うエネルギーを減らし、創エネによって使う分のエネルギーをつくることで、エネルギー消費量を正味ゼロにすることができる。

※2 ZEH:Net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略語。高断熱、高气密化、高効率設備によって使うエネルギーを減らしながら、太陽光発電などでエネルギーをつくり出し、年間で消費する住宅の正味エネルギー量がおおむねゼロ以下になる住宅のこと。